2025 年 7 月【質問者】一般質問　要約

上野総合公園周辺の活性化に関する一般質問のまとめ（國利知史議員）

---

1. 議論の前提となる市の現状と取り組み（事実ベース）

市側の答弁から、上野総合公園周辺の各施設に関する現状と今後の取り組みについて、以下の点が示されました。

- **子供たちと多世代の集いの場整備事業**
    - **これまでの経緯**: 前市長の政策として、レジャー要素も盛り込んだ子育て支援策として進められてきました。
    - **現状と課題**: 八谷市長は、この事業が近隣の類似施設と比較して小規模で、子育て支援としての効果が限定的であると判断し、内容の一部見直しを決定しました。
    - **市の取り組み**: 具体的な見直し内容は現在精査中であり、関連する補正予算を議会に提案する段階で、市民にも説明を行う予定です。
- **食彩館夢さくら**
    - **現状と課題**: 直近 3 年間で来場者数・売上ともに減少傾向にあります。特に、施設の中心である農産物直売所（三直市）の出荷者の高齢化による出荷品目・数量の減少が、施設全体の魅力低下と売上不振の主な原因であると市は分析しています。また、開業から 23 年が経過し、施設の老朽化も課題となっています。
    - **市の取り組み**: 市、出荷者協議会、JA（広島農業）、指定管理者との間で、運営方針の大幅な見直しを含めた協議を進めています。老朽化した施設については、計画的な修繕や設備更新に努める方針です。
- **ラフォーレ庄原**
    - **現状と課題**: 日帰り入浴客は新型コロナウイルス禍以前の水準に回復しましたが、宿泊客数は回復していません。その原因として、市は、市全体への観光客数自体が回復していないことに加え、宿泊客の需要が高い「洋室」が少ないという、顧客ニーズとのミスマッチがあると分析しています。

- **市の取り組み**: 今後、宿泊客数を増やすための分析調査を行い、その結果に基づいて解決策を検討します。また、建設から 25 年が経過した施設の老朽化に対応するため、計画的な修繕・改修計画を策定する方針です。

- **スポーツ施設全般（プール、体育館など）**
  - **現状と課題**: 多くの施設が建設から長期間が経過し、老朽化が進んでいます。特に小学校のプールは 10 校中 6 校が築 40 年以上、市民プールも築 40 年以上が経過しています。また、近年の猛暑により、屋外プールや冷房設備のない体育館での活動が困難になるケースが発生しています。
  - **市の取り組み**: 市の「公共施設等総合管理計画」に基づき、施設の集約や機能の複合化を含めた検討を進めています。当面は安全性の確保を最優先し、計画的な修繕を行っていく方針です。他市の事例（学校プールの民間屋内施設活用など）も参考に、今後の対応を検討するとしています。

- **人工芝グラウンドの整備**
  - **現状と課題**: 周辺の多くの自治体で整備が進んでいる状況は認識しています。
  - **市のスタンス**: 人口減少や厳しい財政状況を考慮すると、全ての施設を理想的な形で維持することは困難です。他の市民サービスとの優先順位を総合的に判断する必要があるため、現時点では人工芝グラウンドの整備は検討していないと回答しました。

2. 議員が提示した現場の現状と調査結果

國利議員は、自身の調査や市民の声に基づき、以下の点を指摘しました。

- **市民の期待と市の説明責任**:「子供たちの集いの場整備事業」は、市民から意見を募るパブリックコメントを経て進められた経緯があり、期待の声も少なからずあった事業です。その事業を見直すのであれば、市は市民に対して丁寧な説明責任を果たすべきだと指摘しました。

- **施設の魅力低下の実態**:

- **食彩館夢さくら**: 出荷者登録数は増えているにもかかわらず、実際の出荷品目が減っているという矛盾を指摘。これは、生産者がより販売力の高い他の直売所（例：道の駅たかの）へ出荷先を移しているためであり、夢さくら自体の魅力や販売力が低下している証拠ではないかと問題提起しました。また、23 年間リニューアルされていない施設の古さも指摘しました。
- **ラフォーレ庄原**: ドライサウナ設置で日帰り客が増えた一方で、値上げ計画によって地元の利用者が離れることへの懸念を示しました。また、館内のお休み処やお好み焼き屋といった施設が活用されていない「未利用スペース」の存在を課題として挙げました。

- **スポーツ施設の厳しい現実**:
  - **熱中症のリスク**: 庄原総合体育館では、実際に熱中症で救急搬送された人が出ており、猛暑が原因で中学生のバスケットボール大会が中止になった事実を挙げ、命に関わる問題であると警鐘を鳴らしました。
  - **周辺自治体との格差**: 近隣のほぼ全ての市町で人工芝グラウンドの整備が進んでいるデータを基に、庄原市がスポーツ環境の整備において「完全に遅れを取っている」と強い危機感を示しました。
- **市の姿勢と市民感情**: 市が「お金がない」という姿勢を前面に出すことが、市民の間に「どうせ庄原市は何もしてくれない」という閉塞感や諦めのムードを広げていると指摘しました。

3. 議員の質問と市への訴えの要点

國利議員は、これらの現状を踏まえ、市に対して以下のような質問と訴えを行いました。

- **情報公開と市民への説明**: 事業の見直しや市の新たな方針については、迅速かつ丁寧に市民へ説明し、情報共有を徹底するよう求めました。
- **施設の具体的な活性化策の検討**:
  - 食彩館夢さくらについて、単なる修繕にとどまらず、再び生産者や消費者に選ばれる魅力的な施設にするための「リニューアル工事」を検討すべきだと提案しました。

- ラフォーレ庄原について、値上げによる影響を最小限に抑える対策と、未利用スペースの有効活用を求めました。

- **将来を見据えたスポーツ施設の再編**:
  - 老朽化と猛暑問題に対応するため、各学校のプールを集約し、天候に左右されない「屋内プール」を整備することを検討すべきだと訴えました。この際、庄原市出身の金メダリスト・金藤理恵さんの功績を称える意味合いも込めるべきだと主張しました。
  - 庄原総合体育館については、多額の改修費がかかることを踏まえ、建て替えも視野に入れた検討を求めました。

- **議員の最も強い訴え**: 議員が最も強く訴えたのは、市の消極的な姿勢からの転換です。「**お金がない」という現状維持の考え方から脱却し、八谷新市政として、市民が夢や希望を持てるような大きなビジョン（特に人工芝グラウンド整備のような大型プロジェクト）にチャレンジしてほしい**という強いメッセージを繰り返し発信しました。これは、単なる施設整備の要求に留まらず、市の未来への投資と、市民の閉塞感を打破するためのリーダーシップを求める訴えでした。

4. 議員と市との間で活発に議論された場面

今回の質問では、特に「人工芝グラウンドの整備」を巡って、議員と市（副市長）との間で考え方の違いが明確になりました。

- **國利議員の主張**:「周辺の市町には全てあるのに、なぜ庄原市にはないのか。完全に遅れを取っている。お金がないと言うばかりでは市民の閉塞感が募るだけだ。新市長になった今こそ、大きな計画にチャレンジすべきではないか。」
- **市の答弁（副市長）**:「財政が厳しい中、全ての施設を理想的な形で持つことはできない。人工芝グラウンドよりも優先すべき市民サービスがある可能性も考えなければならない。現時点では検討していない。」

このやり取りは、未来への投資を積極的に行うべきだとする議員と、財政規律を重視し現実的な対応を優先する市との間の根本的なスタンスの違いを浮き彫りにしました。議員は、市の回答に対して「完全に遅れを取っているということだけは申し伝えておく」と述べ、市の消極的な姿勢に強い不満を示しました。

5. 市の答弁と今後の方向性

議員の各質問に対する市の答弁と、示された今後の方向性は以下の通りです。

議題	市の答弁・今後の方向性
子供たちの集いの場整備事業	具体的な見直し内容は現在精査中。関連補正予算の提案段階で市民に説明する。
食彩館夢さくら	現時点でリニューアルの具体的な計画はない。まずは関係者と運営方針の大幅な見直しを協議し、計画的な修繕は進める。
ラフォーレ庄原	宿泊客増加のための分析調査を行う。未利用施設の活用は指定管理者の判断を尊重しつつ、まずは宿泊客増加に注力する。洋室化については有利な財源を探しながら順次計画する。
プール施設	各学校プールの集約や屋内化については、他市の事例も参考にし、移動時間などの課題を考慮しつつ今後の対応を検討する。
庄原総合体育館	エアコン設置や床の張り替えは計画的に行う必要があると認識。建て替えは、市の全体的な公共施設管理計画の中で検討する。
上野総合公園エリア全体	各施設の連携による相乗効果が生まれるよう、研究を重ねていく。
人工芝グラウンドの整備	**現時点では検討していない。**

最終的な市のスタンス:

今回の議論全体を通して、市は、老朽化した既存施設の維持管理や、現在発生している課題（売上減少など）への対応を優先する現実的な姿勢を貫きました。議員が求めた「新しい庄原への大きなチャレンジ」としての新規大型投資（特に人工芝グラウンド）に対しては、財政状況や事業の優先順位を理由に、現時点では行わないという考えを明確に示しました。